

# 鳥取県西部で大地震



## 境港、日野震度6強

## M7.3「阪神」上回る

【6日午後7時30分】鳥取県西部を襲った地震は、境港市と日野町で震度6強、西伯町、西門町で震度6弱を記録するなど、鳥取県西部を中心に、中四国、近畿、四国などの広範囲で激しい揺れを記録した。気象庁によると、マグニチュード(M)7.3と推定される。一九九五年一月の阪神大震災を越える規模で、震源の深さは約10キロ。鳥取県は同日午後、片山無知村を震源とする災害対策本部を設け、日野町に避難所を出動した。鳥取県本部は同日午後、午後十時現在、震源の下敷きになった土間に居るなど、県内で四十二人が重軽傷を負った。死者は出ていない。日野町の住居「じり」が全壊し、土砂崩れによる道路や線路が寸断され、米子港が閉鎖するなど、鳥取県西部を中心に大きな被害が出た。気象庁は、平成12年鳥取県西部地震」と命名した。

強い地震で倒壊した民家＝6日午後5時20分、鳥取県境港市

### 100棟全半壊 42人重軽傷

【6日午後7時30分】鳥取県西部を襲った地震は、境港市と日野町で震度6強、西伯町、西門町で震度6弱を記録するなど、鳥取県西部を中心に、中四国、近畿、四国などの広範囲で激しい揺れを記録した。気象庁によると、マグニチュード(M)7.3と推定される。一九九五年一月の阪神大震災を越える規模で、震源の深さは約10キロ。鳥取県は同日午後、片山無知村を震源とする災害対策本部を設け、日野町に避難所を出動した。鳥取県本部は同日午後、午後十時現在、震源の下敷きになった土間に居るなど、県内で四十二人が重軽傷を負った。死者は出ていない。日野町の住居「じり」が全壊し、土砂崩れによる道路や線路が寸断され、米子港が閉鎖するなど、鳥取県西部を中心に大きな被害が出た。気象庁は、平成12年鳥取県西部地震」と命名した。

### 近畿、中四国で57人けが

【6日午後7時30分】鳥取県西部を襲った地震は、境港市と日野町で震度6強、西伯町、西門町で震度6弱を記録するなど、鳥取県西部を中心に、中四国、近畿、四国などの広範囲で激しい揺れを記録した。気象庁によると、マグニチュード(M)7.3と推定される。一九九五年一月の阪神大震災を越える規模で、震源の深さは約10キロ。鳥取県は同日午後、片山無知村を震源とする災害対策本部を設け、日野町に避難所を出動した。鳥取県本部は同日午後、午後十時現在、震源の下敷きになった土間に居るなど、県内で四十二人が重軽傷を負った。死者は出ていない。日野町の住居「じり」が全壊し、土砂崩れによる道路や線路が寸断され、米子港が閉鎖するなど、鳥取県西部を中心に大きな被害が出た。気象庁は、平成12年鳥取県西部地震」と命名した。



【6日午後11時30分ごろ】各地の主な震度 (M7.3推定) マグニチュード(M)7.3(推定) 震源地 数字は震度 白は震度0 黒は震度5弱

【6日午後7時30分】鳥取県西部を襲った地震は、境港市と日野町で震度6強、西伯町、西門町で震度6弱を記録するなど、鳥取県西部を中心に、中四国、近畿、四国などの広範囲で激しい揺れを記録した。気象庁によると、マグニチュード(M)7.3と推定される。一九九五年一月の阪神大震災を越える規模で、震源の深さは約10キロ。鳥取県は同日午後、片山無知村を震源とする災害対策本部を設け、日野町に避難所を出動した。鳥取県本部は同日午後、午後十時現在、震源の下敷きになった土間に居るなど、県内で四十二人が重軽傷を負った。死者は出ていない。日野町の住居「じり」が全壊し、土砂崩れによる道路や線路が寸断され、米子港が閉鎖するなど、鳥取県西部を中心に大きな被害が出た。気象庁は、平成12年鳥取県西部地震」と命名した。



# 鳥取県西部中心に強い地震

## 境港6強、米子5強、松江5弱

## 山陰両県 35人が重軽傷

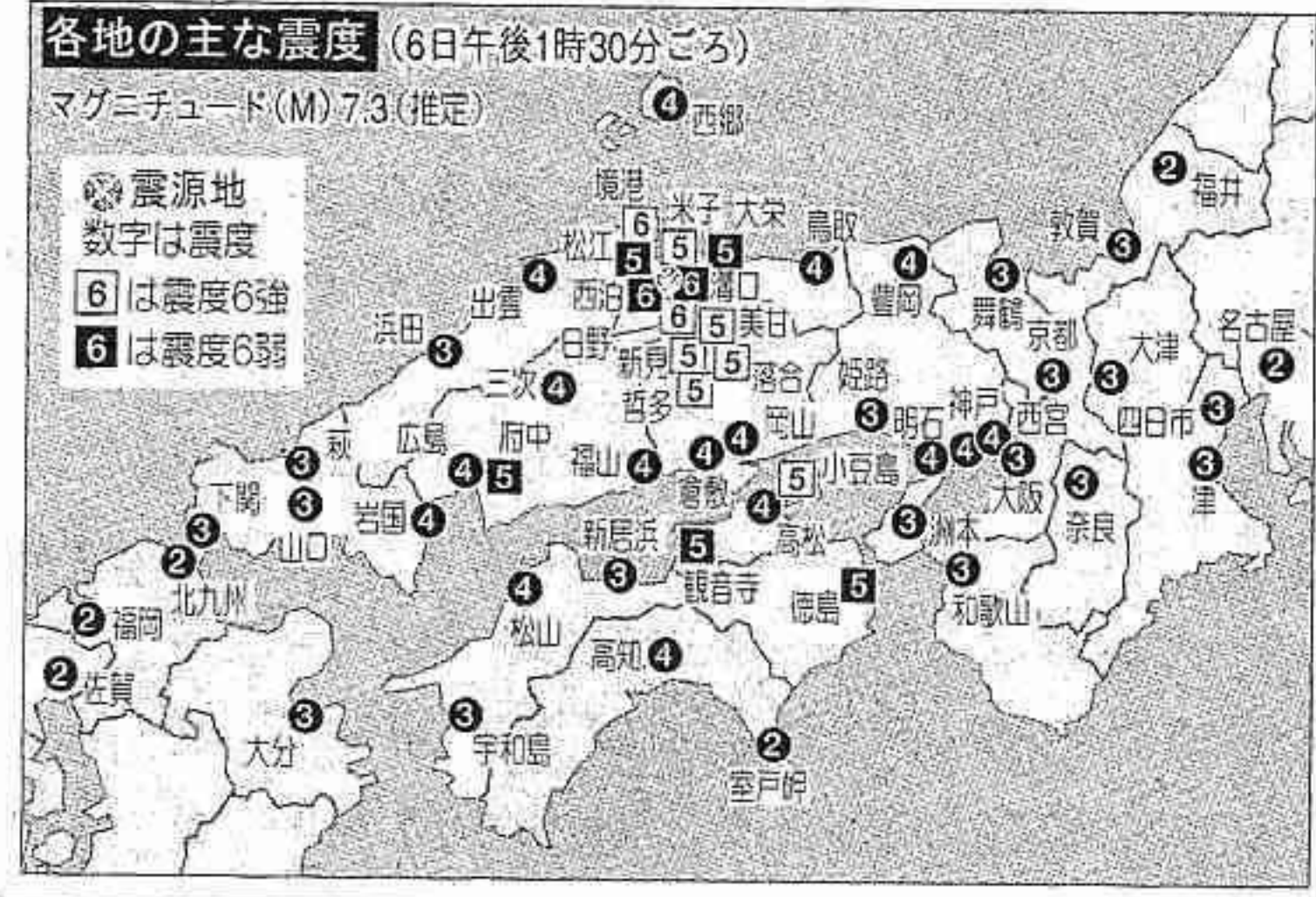


拝殿部分などベシヤンコに倒壊した出雲大社上道教会一境港市上道町、6日午後4時10分

### 片山 災害援助法の適用申請

政府は午後、鳥取県西部中心に強い地震が発生した。境港市、日野町で震度6強を記録したのを始め、米子で震度5強、松江で震度5弱を記録、鳥取、鳥取県内で計35人が重軽傷を負った。マグニチュード(M)は阪神大震災(7.3)を上回る7.3。震源は鳥取県西部(北緯三三・三度、東経一三三・四度)で、震源の深さは約10キロ。気象庁は「鳥取県西部地震」を命名し、「11日までにM6以上の余震が発生する確率は0.5%程度」として、今後の余震に厳重な警戒を呼びかけた。

午後1時30分ごろ、鳥取県西部中心に強い地震が発生した。境港市、日野町で震度6強を記録したのを始め、米子で震度5強、松江で震度5弱を記録、鳥取、鳥取県内で計35人が重軽傷を負った。マグニチュード(M)は阪神大震災(7.3)を上回る7.3。震源は鳥取県西部(北緯三三・三度、東経一三三・四度)で、震源の深さは約10キロ。気象庁は「鳥取県西部地震」を命名し、「11日までにM6以上の余震が発生する確率は0.5%程度」として、今後の余震に厳重な警戒を呼びかけた。



鳥根原発 異常なし  
鳥根原発の鳥取県西部の田舎に、鳥根原発(鳥取県)の稼働は、午後三時十分ごろに、鳥根原発の設備が地震の影響を受けた。鳥根原発の設備が地震の影響を受けた。鳥根原発の設備が地震の影響を受けた。

鳥根原発の鳥取県西部の田舎に、鳥根原発(鳥取県)の稼働は、午後三時十分ごろに、鳥根原発の設備が地震の影響を受けた。鳥根原発の設備が地震の影響を受けた。鳥根原発の設備が地震の影響を受けた。

米子自動車道は全線が通行止めとなり、松江方面から米子方面へ向かう道路は通行止めとなった。松江方面から米子方面へ向かう道路は通行止めとなった。

松江方面から米子方面へ向かう道路は通行止めとなった。松江方面から米子方面へ向かう道路は通行止めとなった。

安全確保に努め、松江方面から米子方面へ向かう道路は通行止めとなった。松江方面から米子方面へ向かう道路は通行止めとなった。

鳥根原発の鳥取県西部の田舎に、鳥根原発(鳥取県)の稼働は、午後三時十分ごろに、鳥根原発の設備が地震の影響を受けた。

鳥根原発の鳥取県西部の田舎に、鳥根原発(鳥取県)の稼働は、午後三時十分ごろに、鳥根原発の設備が地震の影響を受けた。

鳥取県西部  
地震と命名  
気象庁は、今回の地震を「平成十二年(2000年)鳥取県西部地震」と命名した。また、政府は6日後、一時三十分、鳥取県庁を震源とした。

# 鳥取西部で震度6強

## M7.3 西日本各地で揺れ

### 47人けが、家屋274棟損壊

### 余震153回、停電や断水も



六日後一時三十分、中国地方を中心とする、鳥取県西部の福津市、日野町で震度6強、同県西伯町、溝口町で震度6弱を記録したほか、鳥取、岡山、香川、兵庫、徳島、高松、愛媛、福岡、熊本、鹿児島、沖縄の各都府県で震度5以上、震度4以上を記録した。震源地は鳥取県西部で、震源の深さは十メートル、マグニチュードは阪大震災(7.2)を上回る7.3と推定される。午後七時五十分、鳥取県で震度4以上の余震を百五十三回観測した。鳥取、島根県では千六百八十九人がけがをした。各府県の災害対策本部などによると、午後九時現在、鳥取、岡山、島根、広島県で四十人がけがをしたほか、全壊を合わせた百七十四棟が損壊、停電や断水も相次いだ。高松道路や鉄道、空港施設にも被害が発生し、交通に大きな影響が出た。午後十時三十分、31面に記事、9面にカラー写真。

### 空や陸交通大混乱

JR東海道・山陽新幹線に立ち往生した。東海道新幹線が午後二時四十二分に、山陽新幹線が午後六時九分に、それぞれ全線が不通になった。鳥取県西部の福津市、日野町で震度6強を記録したほか、鳥取、岡山、香川、兵庫、徳島、高松、愛媛、福岡、熊本、鹿児島、沖縄の各都府県で震度5以上、震度4以上を記録した。震源地は鳥取県西部で、震源の深さは十メートル、マグニチュードは阪大震災(7.2)を上回る7.3と推定される。午後七時五十分、鳥取県で震度4以上の余震を百五十三回観測した。鳥取、島根県では千六百八十九人がけがをした。各府県の災害対策本部などによると、午後九時現在、鳥取、岡山、島根、広島県で四十人がけがをしたほか、全壊を合わせた百七十四棟が損壊、停電や断水も相次いだ。高松道路や鉄道、空港施設にも被害が発生し、交通に大きな影響が出た。午後十時三十分、31面に記事、9面にカラー写真。



各地の震度  
西伯町 4  
溝口町 4  
鳥取県西部 6強  
岡山県 4  
香川県 4  
兵庫県 4  
徳島県 4  
高松県 4  
愛媛県 4  
福岡県 4  
熊本県 4  
鹿児島県 4  
沖縄県 4

六日後一時三十分、中国地方を中心とする、鳥取県西部の福津市、日野町で震度6強を記録した。震源地は鳥取県西部で、震源の深さは十メートル、マグニチュードは阪大震災(7.2)を上回る7.3と推定される。午後七時五十分、鳥取県で震度4以上の余震を百五十三回観測した。鳥取、島根県では千六百八十九人がけがをした。各府県の災害対策本部などによると、午後九時現在、鳥取、岡山、島根、広島県で四十人がけがをしたほか、全壊を合わせた百七十四棟が損壊、停電や断水も相次いだ。高松道路や鉄道、空港施設にも被害が発生し、交通に大きな影響が出た。午後十時三十分、31面に記事、9面にカラー写真。

鳥取県西部の福津市、日野町で震度6強を記録した。震源地は鳥取県西部で、震源の深さは十メートル、マグニチュードは阪大震災(7.2)を上回る7.3と推定される。午後七時五十分、鳥取県で震度4以上の余震を百五十三回観測した。鳥取、島根県では千六百八十九人がけがをした。各府県の災害対策本部などによると、午後九時現在、鳥取、岡山、島根、広島県で四十人がけがをしたほか、全壊を合わせた百七十四棟が損壊、停電や断水も相次いだ。高松道路や鉄道、空港施設にも被害が発生し、交通に大きな影響が出た。午後十時三十分、31面に記事、9面にカラー写真。

鳥取県西部の福津市、日野町で震度6強を記録した。震源地は鳥取県西部で、震源の深さは十メートル、マグニチュードは阪大震災(7.2)を上回る7.3と推定される。午後七時五十分、鳥取県で震度4以上の余震を百五十三回観測した。鳥取、島根県では千六百八十九人がけがをした。各府県の災害対策本部などによると、午後九時現在、鳥取、岡山、島根、広島県で四十人がけがをしたほか、全壊を合わせた百七十四棟が損壊、停電や断水も相次いだ。高松道路や鉄道、空港施設にも被害が発生し、交通に大きな影響が出た。午後十時三十分、31面に記事、9面にカラー写真。

鳥取県西部の福津市、日野町で震度6強を記録した。震源地は鳥取県西部で、震源の深さは十メートル、マグニチュードは阪大震災(7.2)を上回る7.3と推定される。午後七時五十分、鳥取県で震度4以上の余震を百五十三回観測した。鳥取、島根県では千六百八十九人がけがをした。各府県の災害対策本部などによると、午後九時現在、鳥取、岡山、島根、広島県で四十人がけがをしたほか、全壊を合わせた百七十四棟が損壊、停電や断水も相次いだ。高松道路や鉄道、空港施設にも被害が発生し、交通に大きな影響が出た。午後十時三十分、31面に記事、9面にカラー写真。

鳥取県西部の福津市、日野町で震度6強を記録した。震源地は鳥取県西部で、震源の深さは十メートル、マグニチュードは阪大震災(7.2)を上回る7.3と推定される。午後七時五十分、鳥取県で震度4以上の余震を百五十三回観測した。鳥取、島根県では千六百八十九人がけがをした。各府県の災害対策本部などによると、午後九時現在、鳥取、岡山、島根、広島県で四十人がけがをしたほか、全壊を合わせた百七十四棟が損壊、停電や断水も相次いだ。高松道路や鉄道、空港施設にも被害が発生し、交通に大きな影響が出た。午後十時三十分、31面に記事、9面にカラー写真。

大阪府気象台は午後六時から開いた、今回の地震の震源の深さは十メートル、マグニチュードは7.3と推定される。鳥取県西部を中心とする、中国地方を中心とする、鳥取県西部の福津市、日野町で震度6強を記録した。震源地は鳥取県西部で、震源の深さは十メートル、マグニチュードは阪大震災(7.2)を上回る7.3と推定される。午後七時五十分、鳥取県で震度4以上の余震を百五十三回観測した。鳥取、島根県では千六百八十九人がけがをした。各府県の災害対策本部などによると、午後九時現在、鳥取、岡山、島根、広島県で四十人がけがをしたほか、全壊を合わせた百七十四棟が損壊、停電や断水も相次いだ。高松道路や鉄道、空港施設にも被害が発生し、交通に大きな影響が出た。午後十時三十分、31面に記事、9面にカラー写真。

鳥取県西部の福津市、日野町で震度6強を記録した。震源地は鳥取県西部で、震源の深さは十メートル、マグニチュードは阪大震災(7.2)を上回る7.3と推定される。午後七時五十分、鳥取県で震度4以上の余震を百五十三回観測した。鳥取、島根県では千六百八十九人がけがをした。各府県の災害対策本部などによると、午後九時現在、鳥取、岡山、島根、広島県で四十人がけがをしたほか、全壊を合わせた百七十四棟が損壊、停電や断水も相次いだ。高松道路や鉄道、空港施設にも被害が発生し、交通に大きな影響が出た。午後十時三十分、31面に記事、9面にカラー写真。

鳥取県西部の福津市、日野町で震度6強を記録した。震源地は鳥取県西部で、震源の深さは十メートル、マグニチュードは阪大震災(7.2)を上回る7.3と推定される。午後七時五十分、鳥取県で震度4以上の余震を百五十三回観測した。鳥取、島根県では千六百八十九人がけがをした。各府県の災害対策本部などによると、午後九時現在、鳥取、岡山、島根、広島県で四十人がけがをしたほか、全壊を合わせた百七十四棟が損壊、停電や断水も相次いだ。高松道路や鉄道、空港施設にも被害が発生し、交通に大きな影響が出た。午後十時三十分、31面に記事、9面にカラー写真。

鳥取県西部の福津市、日野町で震度6強を記録した。震源地は鳥取県西部で、震源の深さは十メートル、マグニチュードは阪大震災(7.2)を上回る7.3と推定される。午後七時五十分、鳥取県で震度4以上の余震を百五十三回観測した。鳥取、島根県では千六百八十九人がけがをした。各府県の災害対策本部などによると、午後九時現在、鳥取、岡山、島根、広島県で四十人がけがをしたほか、全壊を合わせた百七十四棟が損壊、停電や断水も相次いだ。高松道路や鉄道、空港施設にも被害が発生し、交通に大きな影響が出た。午後十時三十分、31面に記事、9面にカラー写真。

鳥取県西部の福津市、日野町で震度6強を記録した。震源地は鳥取県西部で、震源の深さは十メートル、マグニチュードは阪大震災(7.2)を上回る7.3と推定される。午後七時五十分、鳥取県で震度4以上の余震を百五十三回観測した。鳥取、島根県では千六百八十九人がけがをした。各府県の災害対策本部などによると、午後九時現在、鳥取、岡山、島根、広島県で四十人がけがをしたほか、全壊を合わせた百七十四棟が損壊、停電や断水も相次いだ。高松道路や鉄道、空港施設にも被害が発生し、交通に大きな影響が出た。午後十時三十分、31面に記事、9面にカラー写真。

鳥取県西部の福津市、日野町で震度6強を記録した。震源地は鳥取県西部で、震源の深さは十メートル、マグニチュードは阪大震災(7.2)を上回る7.3と推定される。午後七時五十分、鳥取県で震度4以上の余震を百五十三回観測した。鳥取、島根県では千六百八十九人がけがをした。各府県の災害対策本部などによると、午後九時現在、鳥取、岡山、島根、広島県で四十人がけがをしたほか、全壊を合わせた百七十四棟が損壊、停電や断水も相次いだ。高松道路や鉄道、空港施設にも被害が発生し、交通に大きな影響が出た。午後十時三十分、31面に記事、9面にカラー写真。

鳥取県西部の福津市、日野町で震度6強を記録した。震源地は鳥取県西部で、震源の深さは十メートル、マグニチュードは阪大震災(7.2)を上回る7.3と推定される。午後七時五十分、鳥取県で震度4以上の余震を百五十三回観測した。鳥取、島根県では千六百八十九人がけがをした。各府県の災害対策本部などによると、午後九時現在、鳥取、岡山、島根、広島県で四十人がけがをしたほか、全壊を合わせた百七十四棟が損壊、停電や断水も相次いだ。高松道路や鉄道、空港施設にも被害が発生し、交通に大きな影響が出た。午後十時三十分、31面に記事、9面にカラー写真。

# 鳥取西部で震度6強

## M7.3 西日本各地で被害

### 負傷者50人超える

#### 西伯町全町民に避難要請



鳥取西部地震の影響で、倒壊した出雲大社上道教会—6日午後4時31分、鳥取県境港市上道町

震度4以上の各地の震度は次の通り。  
震度6強 鳥取県境港市、日野町  
震度6 鳥取県西伯町、溝口町  
震度5強 鳥取県米子市、岡山県新見市、哲多町、落合町、美甘村、香川県土庄町  
震度5 鳥取県東郷町、大栄町、中山町、岡山県勝山町、玉野市、御津町、瀬戸町、香川県庵治町、観音寺市、兵庫県津名町、松江市、島根県玉湯町、大東町、広島県福山市、府中町、徳島市など  
震度4 鳥取県、高松市、兵庫県豊岡市、神戸市、西宮市、姫路市、出雲市、広島市、徳島県小松島市、岐阜県稲葉町、滋賀県近江八幡市、京都府八幡市、大阪府高槻市、愛媛県今治市、川之江市、高知市、高知県安芸市、山口県岩国市、柳井市など

六日午後一時半ごろ、鳥取西部を震源とする強い地震があり、同県の境港市と日野町で震度6強、西伯町で震度6弱、米子市と岡山県新見市などで震度5強を観測。西日本の広い範囲で強い揺れを感じた。気象庁によると、震源地は米子市の南約二十キロで震源の深さは約一〇キロ。地震の規模はマグニチュード(M)7.3と推定される。被害者を含め、四国、近畿地方では少なくとも五十人を超え、死者の報告はない。鳥取県内で家屋百九十九棟が全壊(午後六時半計)するなど、各地で建物や道路に被害が出ている。西伯町では全町民に避難を呼びかけるなど、気象庁で余震に対する警戒を呼び掛けている。

気象庁は、今回の地震を、向に走る活断層がずれ、段階に分かれて以来、震度6強を観測したためと説明した。平成十一年鳥取西部で起きた地震以来、震度6強を観測したのは初めてで、阪神大震災以来の強い揺れという。  
鳥取県西部で震度5強を観測するなど余震が続き、大阪府気象台によると、近畿地方に広がる活断層に、午後六時、官報対策本部が設置し、国土で災害対策本部を立ち上げた。鳥取県と鳥取警備隊は対策本部を設け、片山善博知事は午後二時二十九分、陸上自衛隊に行動を要請し、警察庁の災害準備本部を設置した。  
鳥取県では、日野町下榎木で倒壊した民家の下敷きになった男性(四七)が足を骨折。日野町高谷(七)などの工事現場では土砂崩れで作業員の男性(五)が一時的に埋没となり、右足を負傷した。  
鳥取県の午後六時の時点で、鳥取市内のけが人は三十八人、家屋の全半壊が百九十九棟、二十一カ所で土砂崩れが発生し、道路は九十九カ所で陥没やひび割れが



各地の主な震度 (6日午後1時30分ごろ) マグニチュード(M)7.3(推定) 震源地 数字は震度

### 「未知の活断層」M6余震発生警戒

鳥取西部地震について、知られていない活断層ではないうつ断層が原因の可能性を指摘した。同日は、鳥取県庁で記者会見を開き、七日にも機動捜査班を現地へ派遣、調査を行う。  
また、三浦佐官は(地)震発生から六日後、一時間(六)二十四時間以内にマグニチュード(M)6以上の余震が発生する確率を四〇%程度と高いと述べ、大規模な余震への警戒を呼び掛けた。震源の真上と震度6強に達する恐れがあるという。  
今回の「未知の活断層」は、鳥取県と岡山県境港市を結ぶ、西-南東方向の断層面の北側が西方に動いたと推定される。この辺りではよくあるタイプの、三浦佐官によると、この断層の活断層は存在は知られておらず、特別に危ない地域との認識は、鳥取西部でもたびたび規模の

なかつた」と述べた。気象庁によると、この地域では平成九年ごろから地震が増え始め、最大でM5.5の地震、一回を約二百七十回発生し、これらの地震と今回の地震の震源は北西-南東方向に約二十キロわたってほぼ直線上に並んでおり、この部分に断層の存在が考えられる。  
また、六日午前一時五十分、M2.1の体感しない地震があり、即ち地震だった可能性がある。  
鳥取県では昭和十八年九月十日、東部を震源とするM7.2の「鳥取地震」が発生し、鳥取市で震度6を観測。死者八十三人、家屋の全壊約七千五百棟など大きな被害が出ている。別に危ない地域との認識は、鳥取西部でもたびたび規模の

「鳥取西部」と東海は、振を見合わせる。東海道山岡新幹線の松山など六つの高規格道路も大半が通行止めになり、米子自動車道の米子インターチェンジ付近ではポイント部が五十一メートル、近畿でも中国道、阪和道などの一部が点検のため一時通行止めになった。  
また、中国電力などによる、鳥取県内で約七千七百戸が一時停電になった。

# 緊張に余震が続く

## 静かな山里騒然

### 緊急車両ひっきりなし



余震が続く中、自主避難した住民。鳥取県西伯町法勝寺、西伯小

#### 日野

「しほりくほしせん」として、指から血が流れ出ているのさえ気がなかつた」。鳥取県江府町江尾の理容師、吉岡啓子さん(57)は、地震発生時、お客の顔を洗っている最中だった。地震が起きた瞬間「よくある地震。すぐやめば、と思つた」と言うが、揺れの大きさが十数秒にわたる長さで事態の大きさを直感。反射的にいすから飛び起きた女性客と抱き合い、床にしゃがみ込んだ。その瞬間、右手小指をカミソリで切つた。

お客に指から流れ出る血を指摘されたが「心臓がドキドキして、しばらく痛みを感じなかった」。震源地に近い、同県日野郡内では、道路のあちこちに陥凹や断層ができて、ほげ落つた屋根がわらが道路の端に無残に散らつた。午後一時半の地震発生から、幹線道路には消防車や緊急車がひっきりなしに行き来し、静かな山間部の様子は一変した。

#### 西伯

## 町民に自主避難呼び掛け

### 公共施設開放 350人が不安な一夜

鳥取県西伯町は六日午後二時、坂本昭文町長を本部長とする町災害対策本部を設置。町民に防災行政無線を通じて自主避難を呼び掛けた。町内の公共施設を避難所として開放。避難者は同七時半現在、三百五十人を超え、余震が続く中、不安な一夜を過ごした。

同町法勝寺の西伯小体育館には同日午後六時ごろから次々と住民が避難。同七

#### 山陰の地震被害

鳥取県西部地震は、山陰で大きな被害を出した地震としては、九年六月の山口県北部地震以来三年ぶりとなる。

今回の震源となった鳥取県西部周辺では、元年十一月にマンニチロード(M)5.7、三年八月にM5.9、九年九月にM5.6と、強い地震が発生。いずれも今回と同様、強い余震が続いた。いずれも建物被害など、けが人はなかった。

九年の山口県北部地震は、M6.9で益田市で震度5強を観測。建物被害の甚しさを観測した。

ほか、ガスの一時停止などライブラインにも影響が出た。

山陰を震源とほしめないが、昭和五十八年五月の日本海中部沖地震や平成五年七月の北海道南西沖地震では、大規模な津波被害が発生。船橋や鳥根半島を中心に船舶の転覆や家屋浸水があった。

同県日南町から国道を通り、日野町へ入ると路面は一変。岩や土砂が崩れ落ちた箇所が次々と現れ、至る所に倒れ目が。

同町坂雨の日野町役場では、職員が住民から寄せられる電話の対応に追われた。玄関前に置いた二枚のホワイトボードに被害状況が次々と記された。

時には百人近くになり、余震が起きるたびに、あざこちで悲鳴が上がった。

近くの会社員新井美恵子さん(55)は「家の中は水筒や家具が倒れ、めちゃくちゃな状態。寝る場所もない。早く地震が収まってほしい」と不安そうに話した。

町職員やボランティアらによる炊き出しが行われ、おにぎりが各避難所に届けられた。水道が使えない家も多く、自備水の給水

# 被災2夜目 募る疲労

## 鳥取県西部地震



地震から2晩目を迎え、避難所では高齢者を中心に、医師による診察が行われた(7日午後6時30分、鳥取県西伯町のおおくにコミュニティ運動施設で)＝中原正純撮影

### 医師ら避難所を巡回

### お年寄り「体もつか心配」

鳥取県西部地震の被災地では七日、二度目の夜を迎えた。避難所に身を寄せる住民は支給のおにぎりを握りしめたが、募る疲労から体調を崩すお年寄りも現れており、医師の巡回診断も始まった。給水設備が壊れて全患者をいったんは避難させた病院が患者を再度受け入れ、倒壊の恐れもある現場から隣の建物に災害対策本部を移して仕事を続ける町職員も見られるなど、復旧の歩みは、少しずつだが始まった。

#### ■避難所

鳥取県西伯町の避難住民は午後八時現在、十数か所の避難所に計約七百九十人。町は一人に対し朝におにぎり一個、昼と夜は弁当を出し、ストーブに火を入れた。避難所では、家の掃除や後片付けにいったん帰

宅する人の姿が見られたものの、高齢者の中には、寝れど不安からぐったり横たわったままの姿も。町国民健康保険西伯病院の医師らが避難所を巡回。医師と看護婦、病院職員ら二人一組となり、高齢者を中心に診察していった。

#### ■巡回した同病院精神科医

長谷川忠文さん(48)は「皆さん昨日は寝ておらず、『疲れた』という人が目立っていた。血圧が高い人も何人かあり、疲労や精神的な緊張が表れていると感じた。今後について『避難生活が長期化した場合、特に高齢者に対し、行政や地域社会などが将来の見通しや安心感、希望などをよく伝えていく必要がある』と分析していた。

壇浜市湊町の境公民館では十六人が避難。お年寄りが多く、体の衰えが出始めている人も。自宅が半壊した坂口美さん(78)は「ストレスからか頭と肩が痛くなったり、肩痛、病院に行くと点滴を打った。『体も精神的にもたえている。余震が止まれば少しは気持ちが楽になるんだが……』。身を寄せる所はなく、市営住宅への入居を申し込んだものの、『いつか』という気持ちでいる。『早く出たい』と嘆いた。

洋谷美恵子さん(76)は自宅一階の屋根がわらの一部が落ちかけており、八日から前れそよな天気を心配。「家の荷物はほとんど二階にあるので雨が降ると全部濡れてしまう。近くの大工さんにシートを張るようお願い

んだが、やってくれているかどうか」と困惑顔。睡眠不足で食欲はあまりない。「毎日魚を食べていたのですが、魚がほしい。でもせいとくは言えない。揺れがやむまでは辛抱します」と声を落とした。

## 患者120人 病院へ戻る

### 看護婦ひとまず安心

鳥取・西伯 修理終わる

西伯病院では、地震直後に給水施設などが壊れ、町内の公共施設一か所に患者約百二十人を避難させていたが、七日、施設の修理などが終わり、午後から一時間がかりで患者の病院への集団搬送を行った。看護婦や医師、男性職員らが総出で、患者を抱えたり、ストレッチャーに寄せたりして、病室を整えた主任看護婦の仁田照子さん(45)は「設備の整った病院に戻り、明るい表情の患者さんが多かった。『やれやれでしたわ』とつぶやく人もいた。また余震は続いているが、ひとまず安心です」と語った。

# 「助け合わんと…」

## 西伯・八金地区 車庫を改造し生活

「独り暮らしの同十手を取り合って頑張りましよう」。過疎化が進む鳥取県西部の山間部を襲った今回の地震。約二十戸の小集落、同県西伯町八金地区に住む独居の女性たちは、互いに助け合いながら、震災を乗り切ろうとしている。自宅車庫を「私設避難所」にし、肩を寄せ合って、余震の続く一夜を過ごした。



車庫を仮設の避難所に改造し、地震がやむのを待つ栗本さん（左）ら一鳥取県西伯町八金地区

独居女性の中では一番の若手、栗本静枝さん（左）は、地震発生後、同じ境遇の婦人を気遣い、八十歳前後の他の三人の家庭を訪問した。お互い独り暮らし。こんなときは助け合わんと栗本さん。

すぐに終息すると思っていた地震が長引いたため、家にいるのは危険と、栗本さんは自宅の車庫を避難所に改造。地面にシートを敷き、眠れなかったと栗本さんと返答した。

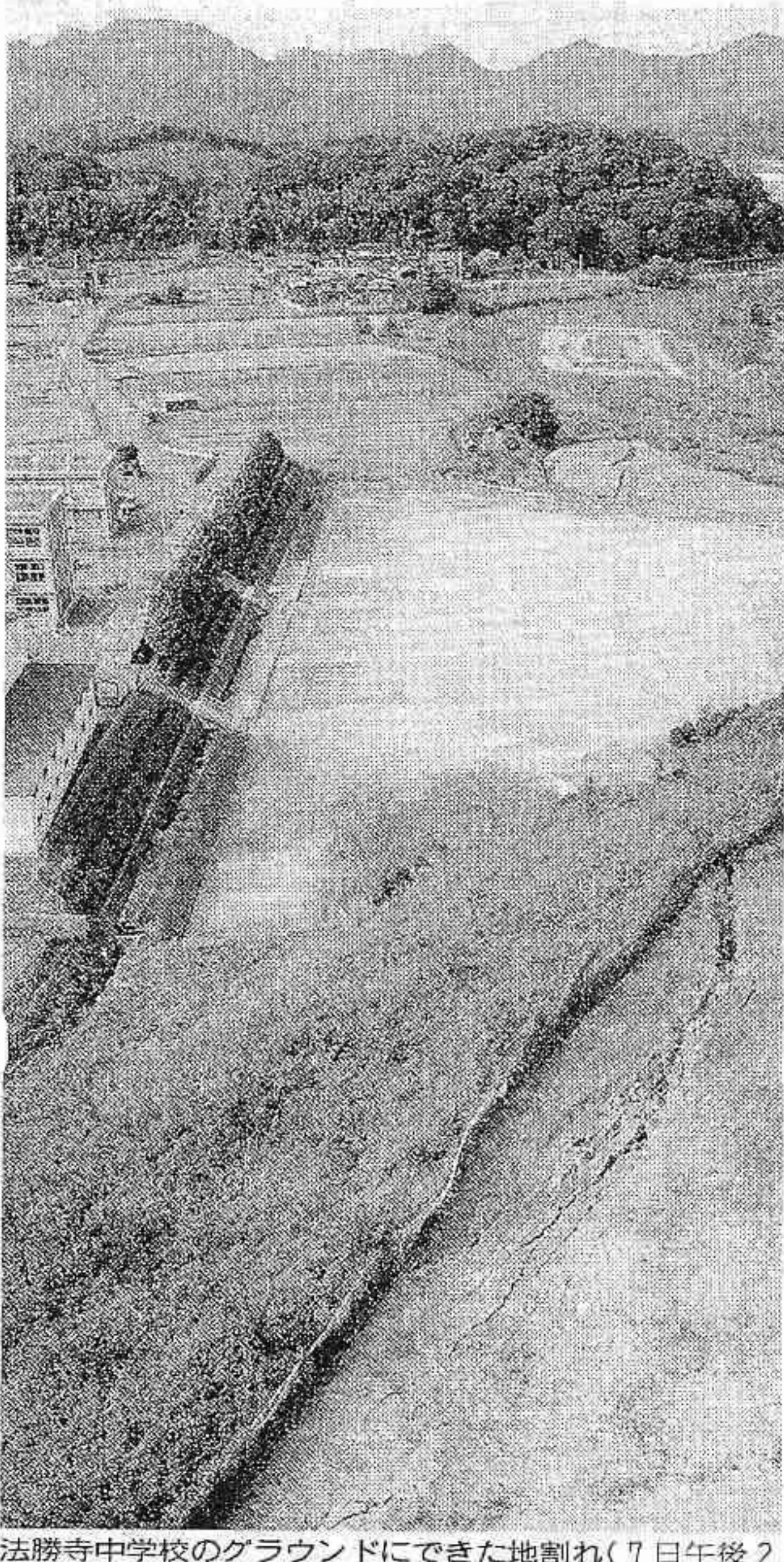
隣村に住む家族の元に引き取られた。栗本さんの息子や娘も、地震の知らせを聞き、駆け付けた。「大丈夫」ときっぱり。「地震のような余震は怖いけど、二人で頑張り」

七日朝になり、一人が近隣の村に住む家族の元に引き取られた。栗本さんの息子が、地震の知らせを聞き、駆け付けた。「大丈夫」ときっぱり。「地震のような余震は怖いけど、二人で頑張り」

# 独居女性スクラム避難

# 救援物資続々と到着

[10月8日付 読売新聞]



法勝寺中学校のグラウンドにできた地割れ(7日午後2時30分、鳥取県西伯町で、本社ヘリから)＝小出夏来撮影

児童ら25人が軽傷。鳥取県警は七日までに、被災地に入った連絡によると、同県西部の小中学校で計二、外県などから避難した児童ら十五人の児童生徒、教師が軽傷を負った。小中学校、幼稚園など六校で、被災地など九十八校で被害の一部が確認された。

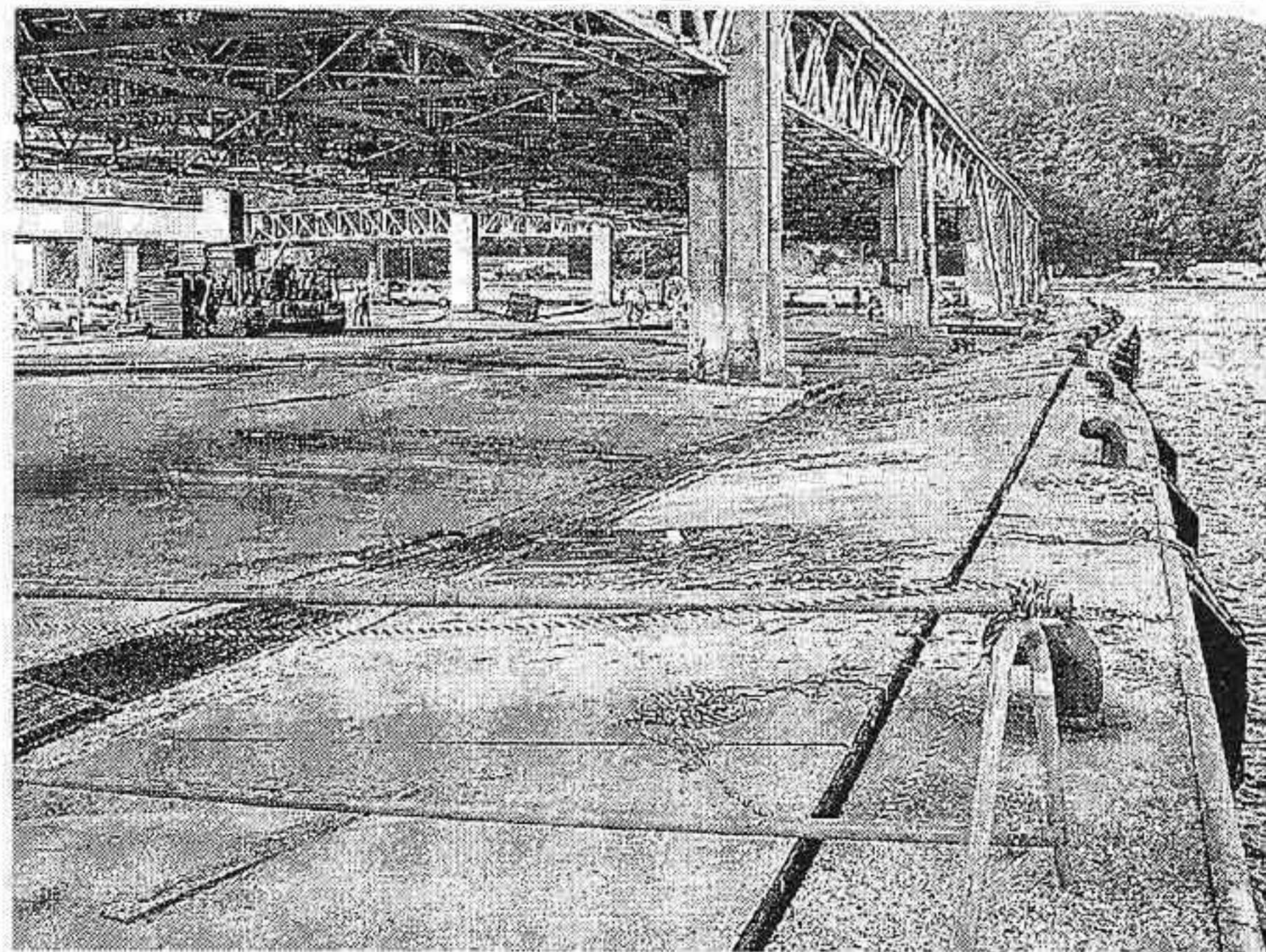
## 長さ40メートル陥没グラウンド 鳥取の中学

鳥取県西伯町馬場の町立法勝寺中学校の軟式野球グラウンドが、最大幅五メートル、長さ約四十メートル陥没している。外野側グラウンドの右側から陥没にかけての陥没は約七メートル、高さ約五メートルにわたって陥没した。同校は七日、臨時休業となり、十日から授業を再開する。石田由朗校長は「生徒に立ち入り禁止を徹底したい」と話している。

陸自米子隊員 給水や炊き出し 空自隊員は土砂撤去

陸上自衛隊の米子駐屯地(佐藤正司令)は、七日も前日に続き全員呼集がかかったまま、隊員約三百人の多くが、ヘルメット姿で待機する。郡部の給水支援や炊き出しなどに追われた。

同駐屯地は片山義博鳥取県知事の要請で、発生から二十分後の六日午後一時五十分後に全員招集した。行政との連絡係を配置するとともに、県西部全域で夜通しパトロールを続けた。約四十人で日野、西伯両郡に飲料水、食料を提供。



震災の深い傷あとが残るカニかご岸壁＝境港市昭和町

夜間になり「暖房機が欲しい」と西伯町から要請があり、ストーブを避難所に提供するなどした。余震が続く七日は、午前五時から日野町、会見町などで炊き出しや給水で活動を展開。岡山、広島各駐屯地からも協力を得て、給水車二十八台がフル回転した。駐屯地内の隊員は、いつでも出動できる態勢で、終日緊迫した表情だった。

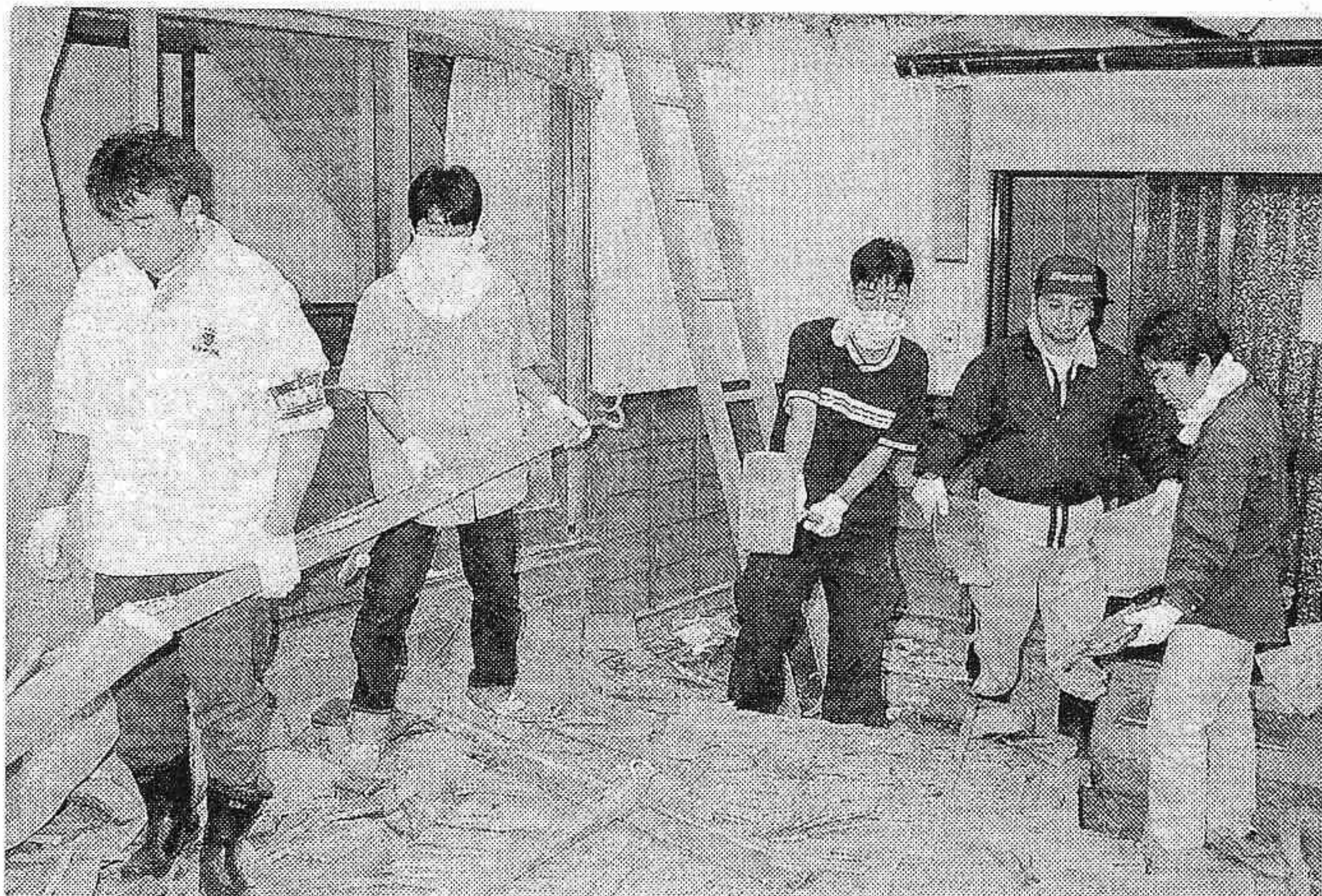
# 復旧へ歩み本格化

## 県西部地震

### 住民ら力合わせ

### ボランティアがれき除去

がれきの間から、住民やボランティアの掛け声が響いた。県西部地震の発生から二日が過ぎた八日、被災地では、住民や各地から応援に駆けつけたボランティアらが、がれきの除去作業にあたるなど、元の生活を取り戻すために力を合わせた。米子市では、ライフラインがほぼ機能をとり戻し、境港市でも廃棄物の仮置場に大量の廃材が運び込まれた。自治体の住民への支援体制も整いつつあり、復旧への歩みが本格化した。



壊れた民家のひさしの撤去作業を行うボランティア（西伯町中で）

町がボランティアの到着を有線放送で町民に知らせると、次々に依頼が寄せられ、ボランティアの人たちは役場の待機所から現地向けて出発した。

屋根のひさし（縦一辺、横十八センチ）が落ちた同町中、会社員森山恒さん(65)は午後三時半、鳥取市滝山、会社員北浦正義さん(70)は午後四時半現在、まで減ったライフラインの電気、水道、ガスもほぼ復旧し、市民生活は平穏を取り戻しつつある。

同市のまごめにも、市内の避難者は七日午前五時の四百六十一人を最高に減少、最高三十二人が所を開

### 牛の搾乳量減少

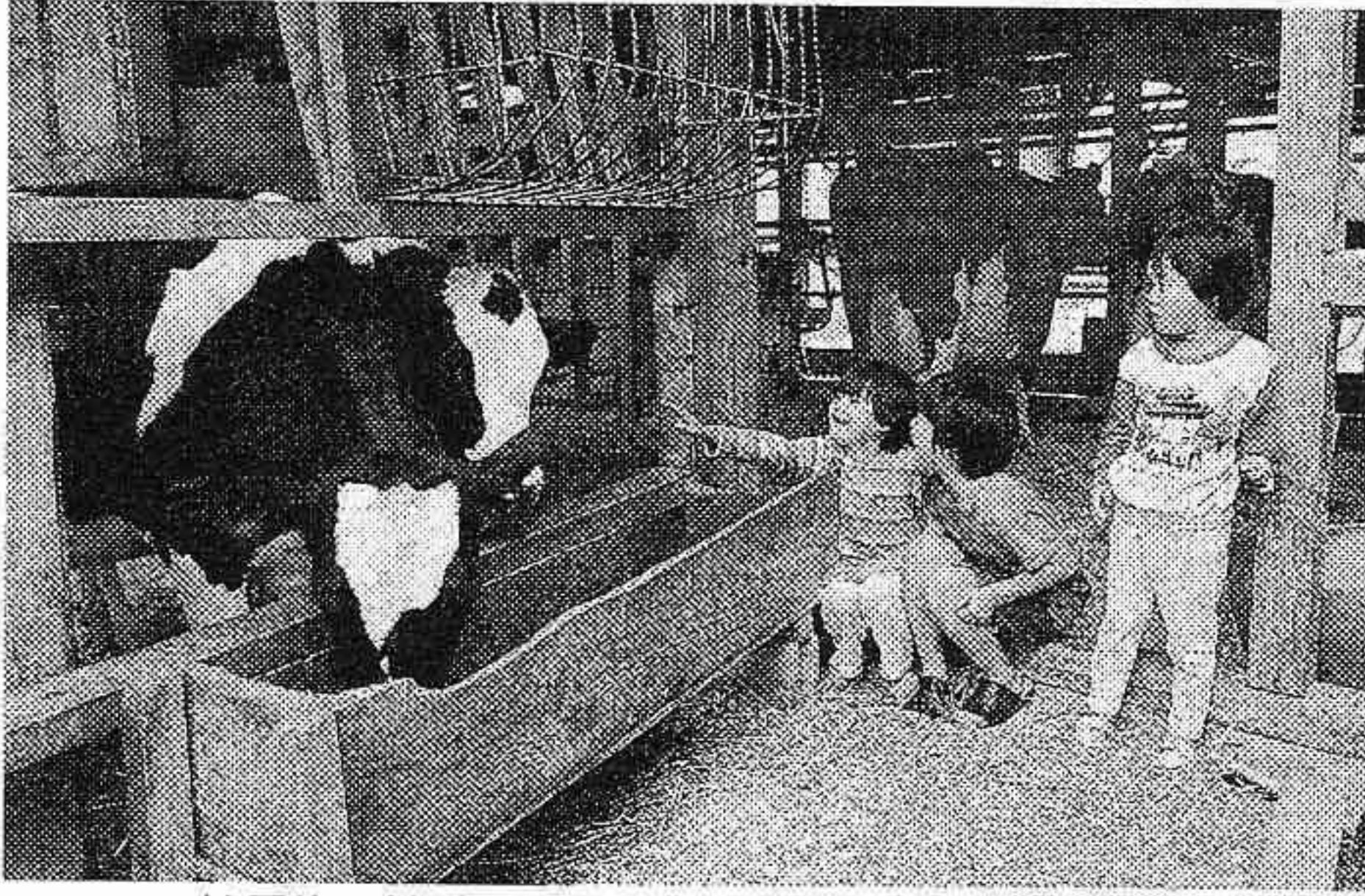
### 西伯 地震ストレス影響か

震源地に近い西伯、会見町で飼育されている乳牛の乳量が県西部地震の発生後、減少していることが八日分かった。酪農家は余震の影響でも、地震が早く治まってほしいと心配している。

西伯町阿賀の西谷隆盛さん(42)は、二頭の乳牛が地震直後から物音に驚くなど神経質になった。地震前の牛の搾乳量は二日間、千五百五十リットルあったが、地震後の六、七日の搾乳量は千九百リットルに減少した。

西谷さんは「乳房は張っているのに乳の出かたが悪い。かなり興奮して、おぼろげに、母牛さん(69)は「搾乳器を近づくと」も泣きながら、後足でひかれるのを固く「ん」と話している。

また、三十一頭を飼育する会見町浅井の酪農家板持



地震後、搾乳量が減った乳牛（西伯町阿賀で）

設していた避難所も避難者がいなくなった十七か所を閉鎖。夜から市職員の手で元消防団員が詰めている。

同市は発生から続いていた全市職員の職場待機も解除、夜から体制を四百七十五人規模に縮小した。

米子市水道局によると、同水道局が管轄する米子、境港市と日吉津村で計七百二十八か所発生した水道管破裂は、震災支援協定を結んでいる岡山、松江、広島など十一水道局の応援もあり、九割以上が復旧した。

・液化現象で断水が続いていた米子市富益町の富益団地八世帯も午後四時半に通水。同じく液化現象が起きていた境港市・竹内団地の工場地帯の断水も九日までは通水の見込み。ガス漏れは発生した四十二か所すべての修理を終えている。

仮置き場に廃棄物

境港市渡町の市営竜ヶ山球場近くに設置された家庭などから出る建材やコンクリート片などの仮置場には復旧活動が本格化したこの日、大量の廃棄物が運び込まれた。

朝から建設業者のトラックや市民の自家用車で木材やブロック、壊れた家電製品などを次々に持ち込んだ。同市災害対策本部のまごめによると、この日までに運ばれた廃棄物は約三百トンになる。同本部では廃棄物置き場まで運ぶことができない高齢者のために、十一・十七各地区の不燃物置き場に廃棄物の持ち込みを許可する。



# 元気な顔 続々登校 **学校**

# 被災 乗り越え再開 **役場**



地震発生以来4日ぶりに登校する子どもたち。後方の民家には雨よけの青いシートがかけられていた。10日午前7時40分、鳥取県西伯町で

鳥取県西部地震で、滑走路の一部は地盤の緩い理由で約二十万平方メートルが陥没し、周辺には被災状況が確認された。10日に復旧作業が完了し、自衛隊機による安全確認のため

## 鳥取県西部地震 米子空港けさ再開 **伯備線も全面復旧**

鳥取県西部地震の被災地では連休明けの十日、地震後に休校となっていた小、中、高校の多くが再開し、子供たちが教室に元気な顔を見せた。役場が激しく損壊した同県溝口町では臨時役場を開設して窓口業務を再開、日野町では仮設住宅建設のための作業に入った。ストップしていたJR伯備線と米子空港も運

再開へ向けて急ピッチで作業を進め、復興への歩みが目ざましく始まった。

# 復興へ力

## 兵庫県などが 支援職員派遣

兵庫県と神戸市、同市社会福祉協議会の職員計十二人が十一日から、鳥取県西部地震の被害が大きかったウハウを指導する。

# 「高齢者の町」助け合った

## 西伯町 先取り介護施策生かす

高齢化率全国七番目の鳥取県の中でも、四人に一人以上が65歳以上の西伯町。鳥取県西部地震で、お年寄りは避難所に入らずに自宅に留まり、避難生活の長期化が懸念され、今後の生活や体調、心の問題に不安もある。高齢化社会を一定先に対応した町は、被災地での福祉」という大きな課題に立ち向かっている。

「自主的に避難して下さる、町の防災無難が、初めや高齢者が倒れ、かわらぬが」。地震発生から四時間、避難を勧めた。たえず、散らさる民家から、お年寄りを助け、風邪をひかないようスト

プを出したり、お年寄りに水を飲ませ、「安心して下さい」と励ましたりした。翌日からは、町西伯病院の医師らが心のケアも担当しながら、避難所を巡回診察し、お年寄りの訴えに耳を傾けた。



「地震の記憶を整理させ、元気に遊ばせることが重要」と話す兵庫県教育委員会の震災・学校支援チームのメンバー＝鳥取県西伯町法勝寺、西伯小学校

### 児童の精神ケア伝授

#### 阪神大震災 西伯郡の学校訪問

阪神・淡路大震災を体験した兵庫県教育委員会の震災・学校支援チーム（新井浩二会長、九十人のメンバー）が十一日、鳥取県の西伯、合見の両町内で四小、中学校を訪問。学校関係者が震災で心に傷を負った児童へのメンタルケアのノウハウを学んだ。

## 「安心、気も紛れる」 避難所生活、会話ははずむ

#### 独居老人

西伯町法勝寺の西伯小学校では、岸信隆校長、井上肇町教育長、同校の教員らが出席した。

鳥取県教育委員会は、三日間の日程で西伯町法勝寺の西伯小学校を訪れた。

鳥取県教育委員会の新井浩二会長は、被災地を視察し、避難所の運営などについて、被災地関係者らと話し合った。

避難所生活、会話ははずむ。身の上や好物など話すと、なごむ。避難所生活、会話ははずむ。身の上や好物など話すと、なごむ。

避難所生活、会話ははずむ。身の上や好物など話すと、なごむ。避難所生活、会話ははずむ。身の上や好物など話すと、なごむ。

避難所生活、会話ははずむ。身の上や好物など話すと、なごむ。避難所生活、会話ははずむ。身の上や好物など話すと、なごむ。



避難所に集まったお年寄りたち。身の上や好きな食べ物などの話に花が咲く＝鳥取県西伯町法勝寺、プラザ西伯

避難所に集まったお年寄りたち。身の上や好きな食べ物などの話に花が咲く＝鳥取県西伯町法勝寺、プラザ西伯

避難所に集まったお年寄りたち。身の上や好きな食べ物などの話に花が咲く＝鳥取県西伯町法勝寺、プラザ西伯

避難所に集まったお年寄りたち。身の上や好きな食べ物などの話に花が咲く＝鳥取県西伯町法勝寺、プラザ西伯

避難所に集まったお年寄りたち。身の上や好きな食べ物などの話に花が咲く＝鳥取県西伯町法勝寺、プラザ西伯

避難所に集まったお年寄りたち。身の上や好きな食べ物などの話に花が咲く＝鳥取県西伯町法勝寺、プラザ西伯

避難所に集まったお年寄りたち。身の上や好きな食べ物などの話に花が咲く＝鳥取県西伯町法勝寺、プラザ西伯

### 情報や励まし HPP大活躍 西伯町

鳥取県西部地震で被害に遭った西伯町の役場のホームページが震災情報を発信したり、電子メールでボランティアの申し出を受けたりと活躍している。地震が起きた六日に同町が米子市で開いた「介護保険推進全国サミット」の内容を掲載するのに合わせて、全面的に作り直したばかりだった。同町は届いた励ましの電子メールを役場に張り出している。

西伯町のホームページは三年前

#### メール 役場に張り出し

前にできたが、アクセス数は一日数件という状態が続いた。町主催の「サミット」を控えた十月三日、関連情報を載せ、全面的に作り直したところ、アクセス数は一日二百件前後に増え、地震があった六日は千二百五十件、七日は千三百一件と激増した。町役場でまとめた震災情報を素早く掲載しているのが大きいようだ。

西伯町のホームページのアドレスは「http://www.saihakku.net/」。

# 被災実態や住民ニーズ把握へ

鳥取県  
西部地震

## 西伯町 “出前の窓口相談”スタート

### 全高齢者世帯を対象

鳥取県西部地震で、西伯町が十六日、高齢者世帯全三百八十戸を対象に、健康福祉課の職員らが戸別訪問する「出前の窓口相談」を始めた。被災実態や住民のニーズを把握すると同時に、公的支援を利用するためのアドバイスをするのが目的。

同町は被災直後に、民生委員や保健婦らが高齢者を中心に安全確認や健康状態の調査に回った。しかし、被災者に対する種々の公的支援制度の説明や利用手続きなどのフォロー、さらに被災者対策を考へる上で、住民ニーズを把握するためには、行政の訪問相談が必要と判断した。初日は震源地に近い金山、下中谷地区などを訪問。健康福祉課職員と、応援の県職員十二人、二人一組で対象の三百八十戸を五日間



お年寄りから住居の被災状況や要望を聞く町職員（手前）—西伯町下中谷

健康・生活支援調査カードを元に、健康状態や、家屋の被災状況、修理費、必要な生活支援などを個別に聞き取った。聞き取り調査では「修理してこのまま住み続けるかどうか、また決めかねている」どの程度の融資が受けられるのか早く知りたい」と、住居に関する声が多かった。

健康福祉課は「介護保険についても、被災者の中で保険料や利用料の一割負担の支払いに困る人がどれくらいあるのか、今回の調査などを基に、対策を検討していきたい」としている。

## 空き家を仮住まいに

### 西伯町 被災者向けに準備

西伯町は、被災者向けの仮住まい対策として、町内の空き家を活用する準備を進めている。「もともとの住環境に近く、仮設住宅よりも抵抗感が少ないはず」との考え。県も、市町村が空き家を借り上げる場合に補助金を交付する方針を決めた。

同町では現在、家屋が壊した人は町営住宅に入居するなどし、避難所で生活している人は少ないが、町総務課は「補修する際に一時的に仮住まいを必要とし、町営住宅に入り切れない人が出てくるのでは」とみている。町は防災無線を使い、空き家となっている物件の提供を求めている。これまでに五棟の申し出があり、職員が状態を点検中。仮設住宅は建設しない。今回の町方針を受け、県は空き家借り上げに対する補助を決めた。補修経費は五十万円、家賃は一月三万円を上限に、それぞれ県と市町村が半分ずつ負担する。西伯町の藤友裕美総務課長は「簡易な仮設住宅よりも、もともとの住まいに近い雰囲気、気分的にもホッとしてもらえないのではないかと話した。

